

IV 京町地区の調査

1. 熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査（9405調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

熊本大学では、関係施設の大規模な設備の新設、改修が計画され、それに対応するための学内遺跡調査委員会の設置の検討が始まった。この新組織は平成6年度から正式に発足したが、すでに事業の完成年度の計画はなされており、熊本大学附属中学校コンピューター教育施設地の発掘調査については、大学の現有人員では対応できない状況であった。大学との協議の結果、発掘調査は熊本大学において行うものの、調査作業は熊本県教育庁文化課が応援することとなった。

本調査に先立つ確認調査は熊本市教育委員会文化課において実施され、弥生時代の遺構の存在が予想されていた。これを受けて本調査は、コンピューター教育施設の敷地範囲約400㎡を対象に平成6年5月17日から同年6月25日に行った。

b. 調査の経過

- 5月17日 重機による表土剥ぎ開始。
- 5月19日 表土攪乱除去。1号竪穴住居址確認。
- 5月25日 土坑（江戸時代）、ゴミ穴（明治時代）発見。
- 6月8・9日 井戸および住居址の実測。
- 6月15日 井戸・住居址の遺物取り上げ。
- 6月20・21日 平板測量。
- 6月24日 調査区全体写真撮影。
- 6月25日 作業終了。

c. 調査の組織

調査主体：熊本県文化課 桑山裕好課長 文化財調査第1係（島津義昭係長）

調査員：吉田正一

発掘作業員：熊本県文化課雇用発掘作業員

整理事業員：熊本県文化財収蔵庫整理事業員

（2）調査区の基本層序（図30）

遺跡の基本層位は次のとおりである。

- 1層 表土であるが、現代の瓦礫混じりであり、ほとんどの地点で同層はⅢ層まで切り込みが達している。この層位には近現代の新旧の建物の基礎、塵穴が包含される。厚さ40cm。
- 2層 黒褐色土であるが、ほとんど自然層は失われ、藩政時代に大規模な整地と客土がなされている。同層もかなりの部分が1層の攪乱を被るとともに、同層自体も3層の上層を広範囲にわたり攪乱している。主として近世の遺物を包含する。厚さ80cm。
- 3層 暗褐色ないし黒褐色土である。弥生時代の遺物を包含するが、かなりの部分がⅠ、Ⅱ層からの攪乱を受けている。厚さ30～50cm。
- 4層 褐色土でわずかな粘性がある。微細な軽石状の粒子を含み、ややクラックを有する。厚さ30cm。
- 5層 黄褐色土で強い粘性を有する。無遺物層である。厚さ120cm。
- 6層 淡赤色味のある黄褐色土で強い粘性を有する。無遺物層である。

1. 熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査

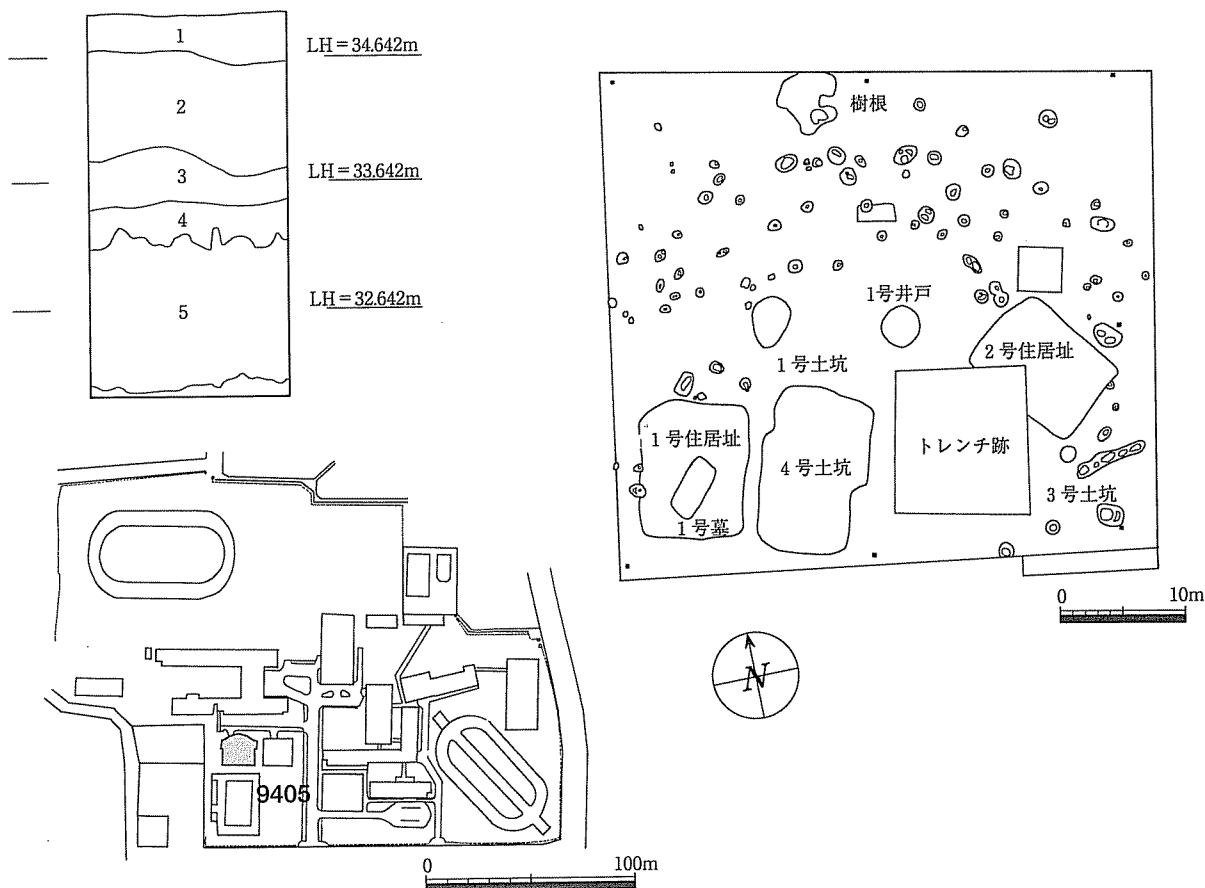


図30 京町地区における既往調査地点と9405調査地点位置図 (1/3600)・基本層序 (1/60)・遺構配置図 (1/30)

(3) 検出遺構

調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居址2基と墓壇1基のほか、江戸時代の土坑と井戸の遺構を検出し、いずれも多数の遺物が出土した。附属中学校敷地は、東隣の同小学校敷地とともに旧肥後藩の家老職を勤めた澤村家の屋敷跡にあたるため、このような江戸期の遺構が多いものと思われる。さらに明治、大正時代以降の学校関係の遺物が古いゴミ穴から多く出土した。

<竪穴住居址>

竪穴住居址は、弥生時代後期のものである。いずれも床面まで削平を受け、遺構の残りが悪く、壁溝により辛うじて規模を窺い知ることができる。

1号竪穴住居址 (図31・図版18-2)

調査区の南西に所在し、平面形態は壁溝の配列から想定して長方形をなすとみられる。長軸方向は5.2m、短軸方向は4.1mを測り、主軸の方位はN-6°-Eである。主柱穴は4個であり、柱の囲む床面には若干の硬化が観察された。炉は住居址の中心部より西寄りにあり、隅丸長方形で、その規模は、長軸方向は88cm、短軸は71cm、深さは21cmを測り、主軸の方位はN-43°-Wである。

2号竪穴住居址 (図31・図版19-3)

調査区のやや東寄りに所在し、一部を後世の攪乱により切られる。ほぼ連続する壁溝の残存状況からみて平面形態は長方形であり、長軸方向は5.08m、短軸方向は3.78mを測る。主軸の方位はN-36°-Wであり、主柱穴は2個である。北隅には床面の硬化の差が観察され、削平により失われたベッド状遺構が設けられていたとみられる。住居址の中心部から南西寄りの床面に、円形の炭化物の

集中部分があり、炉の痕跡であろう。その規模は、長軸方向は48cm、同じく短軸は43cmを測る。

<墓>

1号墓 (図32・図版19-4、20-5)

1号竪穴住居址と切り合っている。住居址の硬化面上に乾燥しない長方形の部分を検出した。発掘すると、床面は平坦であり、その縁辺に重なりがちに並行する長方形の深い溝列が現れた。板石の抜き取りか、短幅の板材の抜き取りあるいは腐朽により生じた棺材の配列痕と判断した。遺物の出土はなかったが、検出状況よりみて住居址より古い時期の遺構である。規模は、長軸方向が2.46m、短軸方向が99cmを測る。主軸の方位はN-31°-Eであり、床面までの比高差は9cm、溝の最深部までは同じく15cmである。

<土坑>

1号土坑 (図33)

平面形態は楕円形で、長軸方向は1.95m、短軸方向は1.44m、深さは30cmを測る。主軸方位はN-14°-Eである。出土遺物は多く、土器溜め状を呈する。瓦の破片を主体に、陶磁器の小破片を含む。

3号土坑 (図33・図版20-10)

平面形態は円形であり、直径は92cmを測る。主軸の方位はN-2°-Eである。深さは6cmを測る。埋土は硬くしまっており若干の遺物を混じえる。

4号土坑 (図33・図版20-11・12)

調査区内には新旧とりまぜて数カ所の長方形の塵捨穴があり、この中から附属中学校の前身である旧熊本師範学校当時の古い学用品、瓶類などが出土した。その中の一つを図示した。長さ4.2m、幅3.7m、深さ20cmである。明治から昭和初期の遺物である。

<井戸>

1号井戸 (図32・図版20-6~9)

調査区の中央に所在し、平面形態は円形であり、長軸方向は1.47m、短軸方向は1.45mを測る。深さは6mを測る。井戸穴に随伴して井戸を覆う建屋のものと思われる一対の柱穴を検出した。この柱穴を結ぶ線を主軸としての方位はN-82°-Eである。井戸壁面には垂直方向に柁目板の圧痕が観察され、7~8枚の板で井桁を構成したとみられる。多くの遺物が浅いレベルに偏在し、これに混じえて2枚の銅銭が出土したことは注目される。1枚は寛永通宝と判読でき、廃絶の際、井戸埋めの祭祀に供されたものであろう。浅いレベルに遺物が集中するのは埋没後に地盤の沈下で生じた窪みが掃き溜めと化したためであろう。

(4) 出土遺物 (図34~37・図版21・22)

1号竪穴住居出土遺物

1は柱穴より出土した壺形土器の口縁から肩部にかけての資料である。胴部は長球状をなし頸部に強く外湾して開き口縁を形成する。頸部に断面が三角形の突帯を有する。

2号竪穴住居出土遺物

出土遺物は、重弧文と平行の沈線を施す壺形土器の肩部破片(2・3)である。

1号土坑出土遺物

本土坑からは巴文の軒丸瓦(4・5)、白磁碗(6・15)、青磁皿(8)、網目文染付碗(9・10)、花草文染付瓶(12)、蛸唐草文染付皿(13)、陶器碗(7・14)、陶製播鉢(21)、陶製急須(17・18)、

1. 熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査

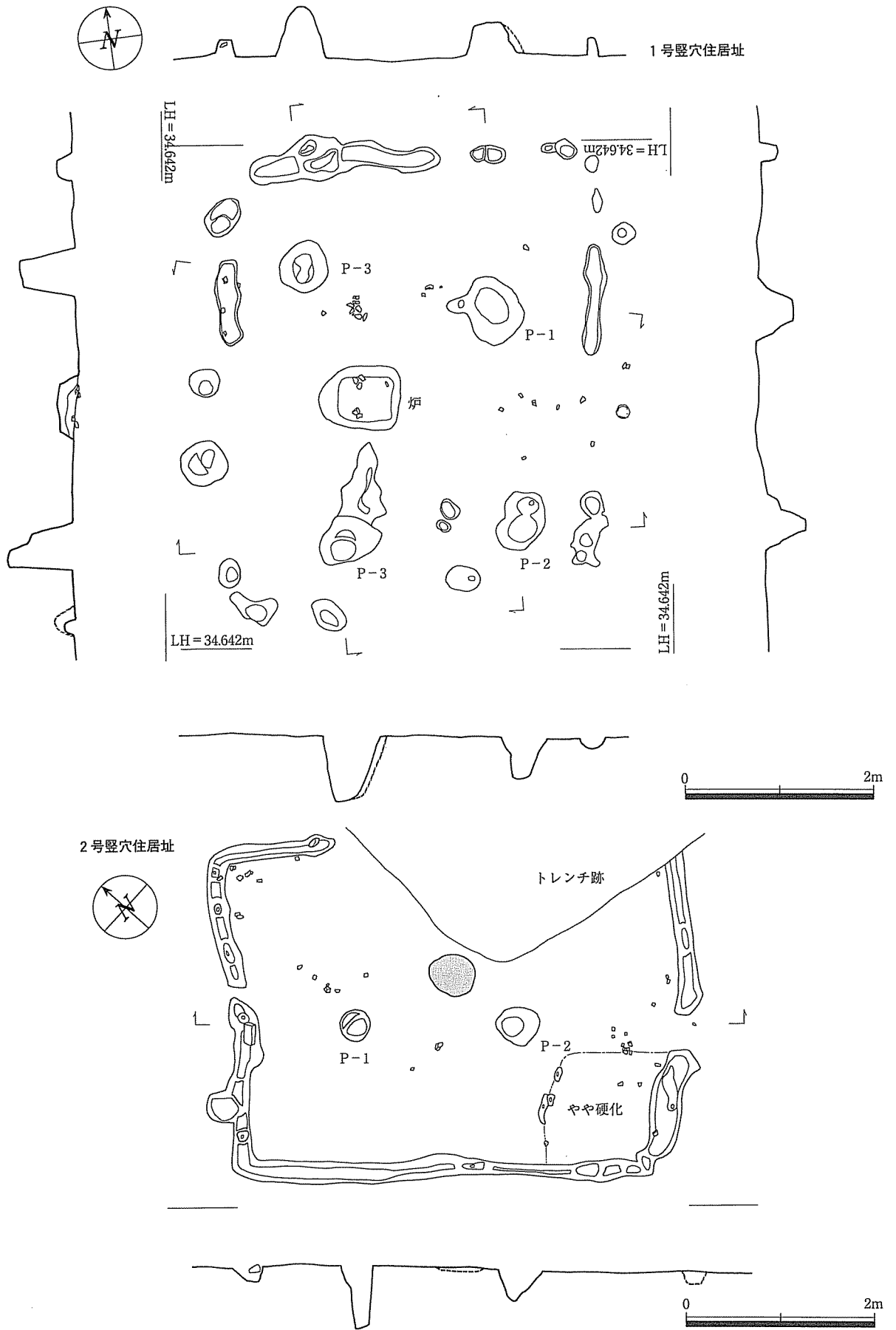


図31 1・2号竪穴住居址実測図 (1/60)

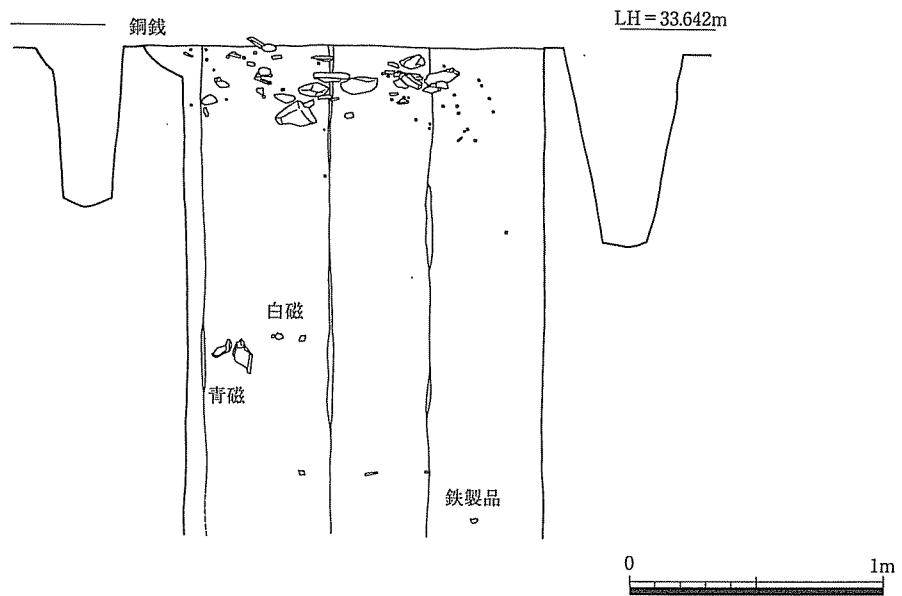
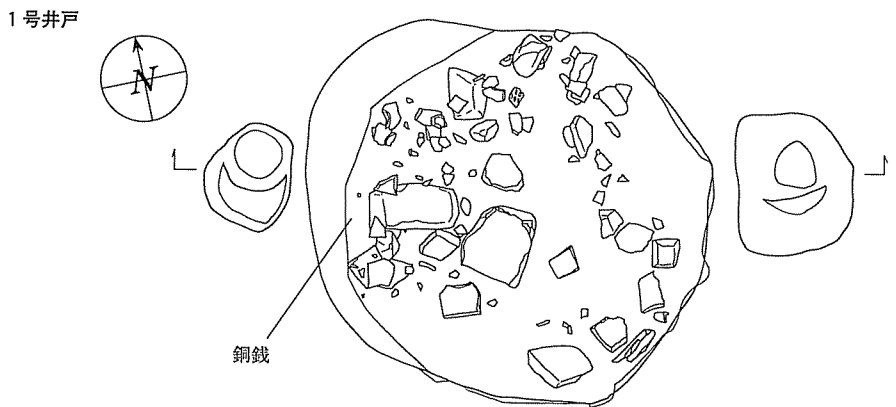
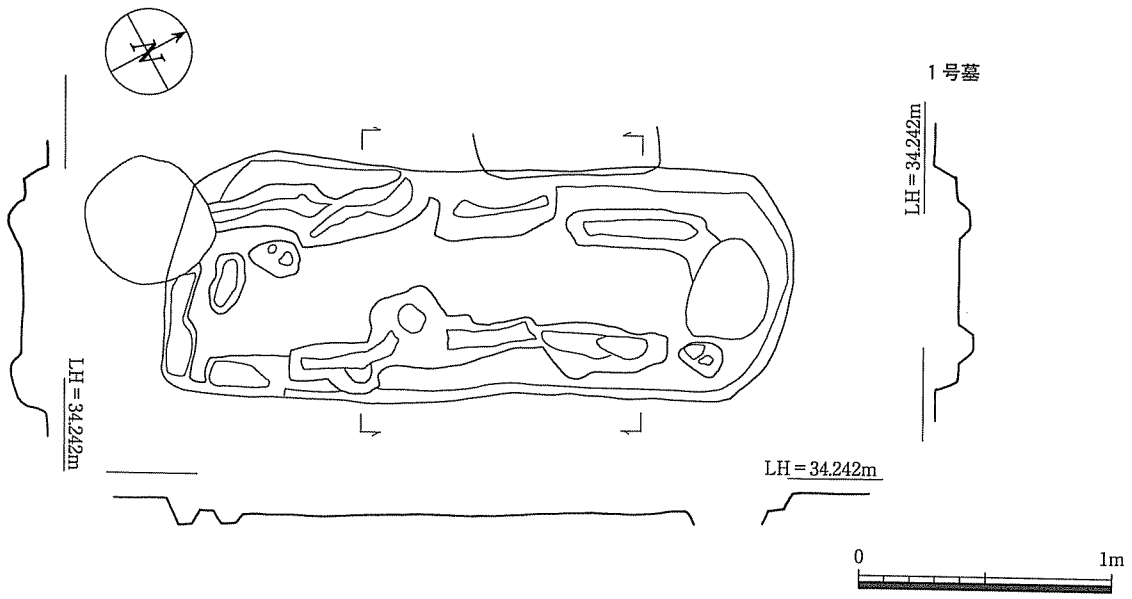


图32 1号墓実測図・1号井戸実測図 (1/30)

1. 熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査

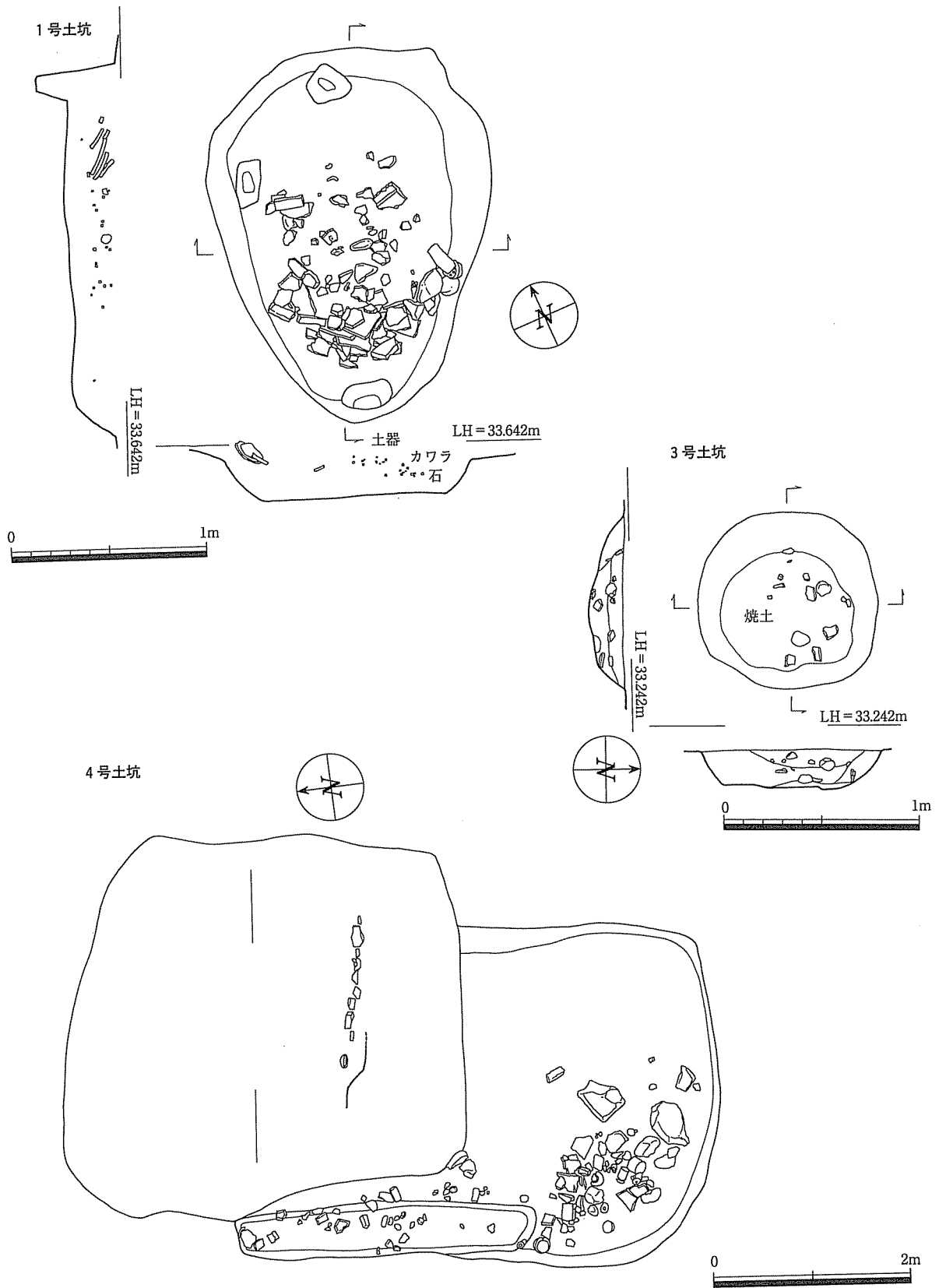


図33 1・3・4号土坑実測図 (1/30・1/60)

磁器鉢 (11・20) などの陶磁器の他、煙管の吸口 (22) や蛤の殻 (19) が出土した。

1号井戸出土遺物

本井戸からは、青磁碗 (27・58)、白磁坏 (30)、磁器碗 (28・29)、磁器皿 (33)、磁器鉢 (31)、網目文染付碗 (25)、染付碗 (32)、染付皿 (34~37)、陶器碗 (39・40)、陶器鉢 (41・42)、陶器片口鉢 (45・46)、陶製播鉢 (24・38)、瓦質火舎 (51)、瓦質甕 (56)、瓦質播鉢 (57)、土師器皿 (52~54) などの各種容器の他、寛永通寶銅銭 (48)、不明銅銭 (49)、不明土製品 (47)、軽石製の有孔円盤 (50)、砂岩製の砥石 (55) などが出土した。

4号土坑出土遺物

本遺構からは、磁器碗 (59・60) や型刷染付碗 (62・63) など各種容器が出土した。この他、薬瓶 (70~74)、糊瓶 (68)、インク瓶 (69)、硯 (65) などがある。最も多いのは石板であった。

その他の遺物

82は深鉢土器の口縁部である。口縁端部の外面には、横方向にヘラ状工具で粗くナデ痕を残す。77は重弧文を有する長頸壺形土器の胴部破片で、83はジョッキ型土器の底部破片であり、弥生時代後期の所産である。81は瓦である。外面は縦方向に磨かれ、内面は布目の圧痕が残る。1号井戸より流入遺物として出土した。京町台地南端のこの一帯には布目瓦の出土事例が報告されており、かつて存在したとされる古代寺院「大道寺」に関する遺物とみられる。

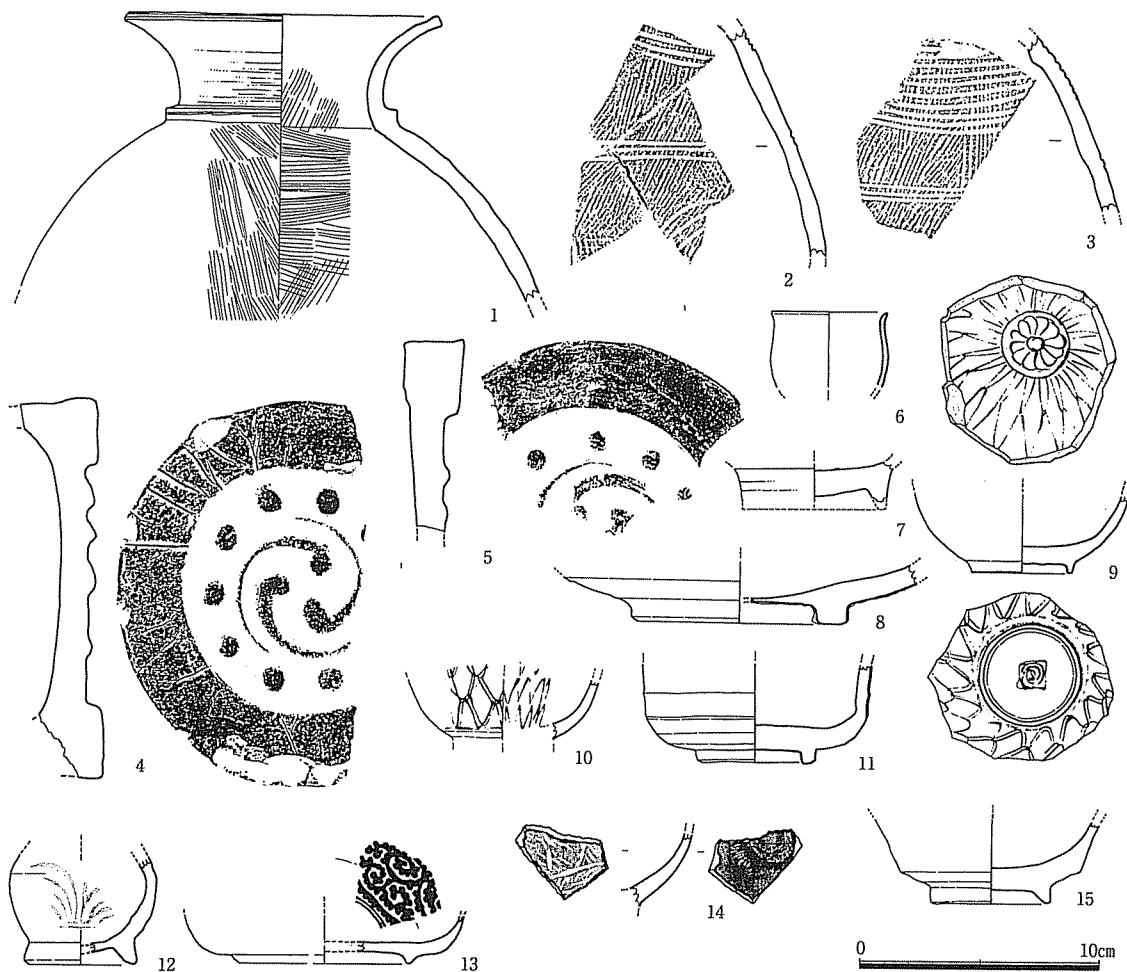


図34 9405調査地点出土遺物実測図1 (1/3)

1. 熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査

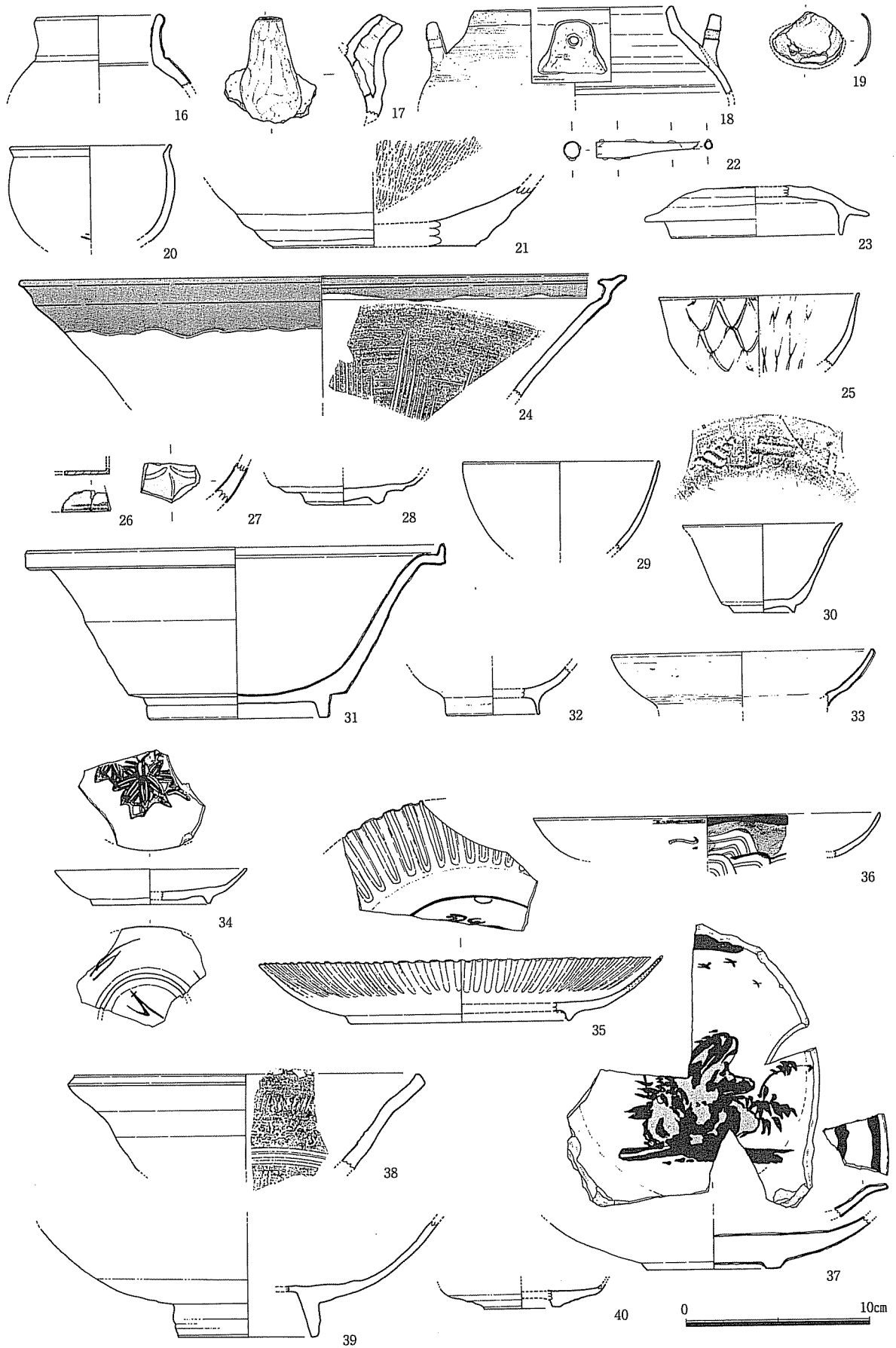


図35 9405調査地点出土遺物実測図2 (1/3)

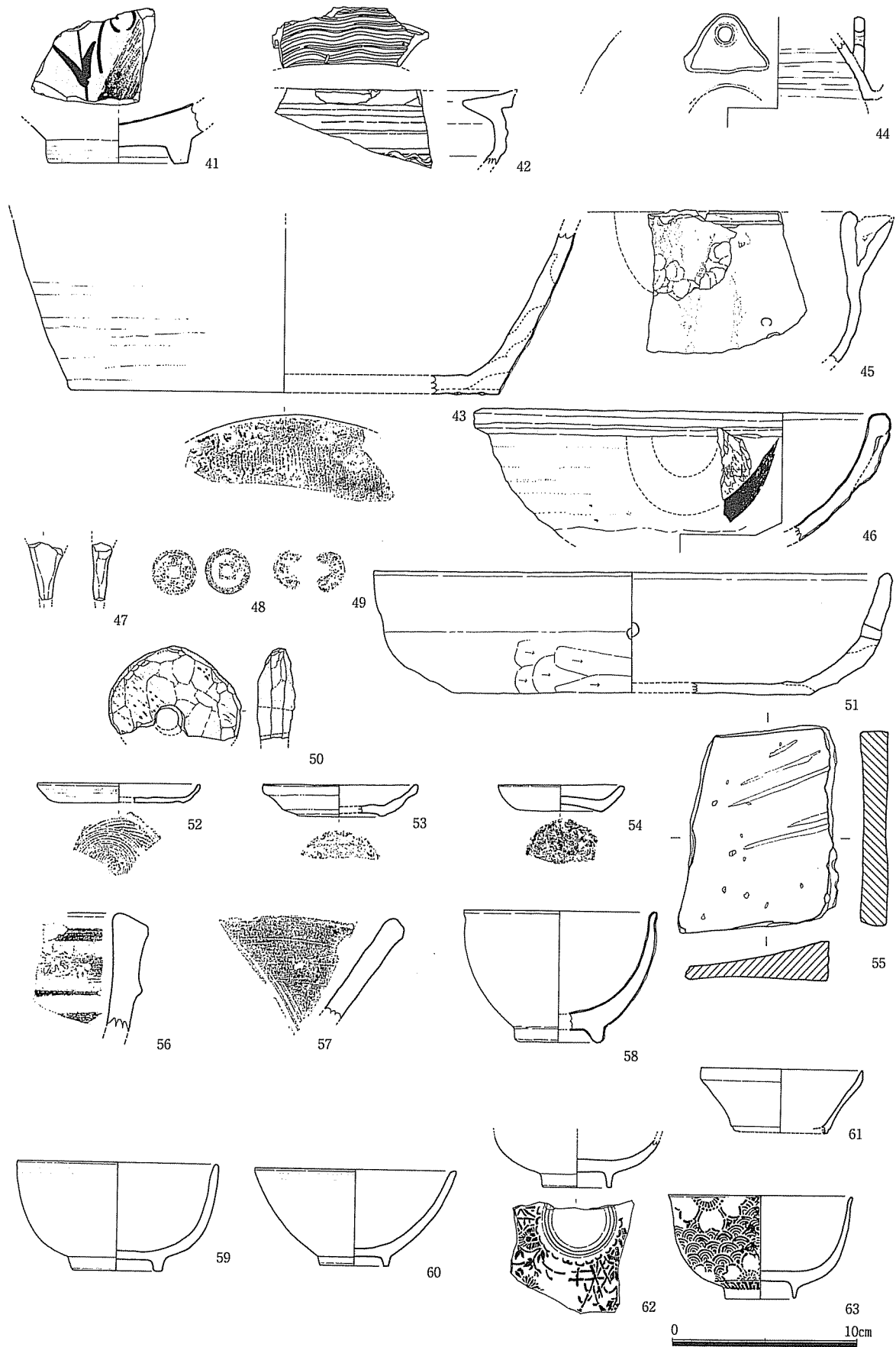


図36 9405調査地点出土遺物実測図3 (1/3)

1. 熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査

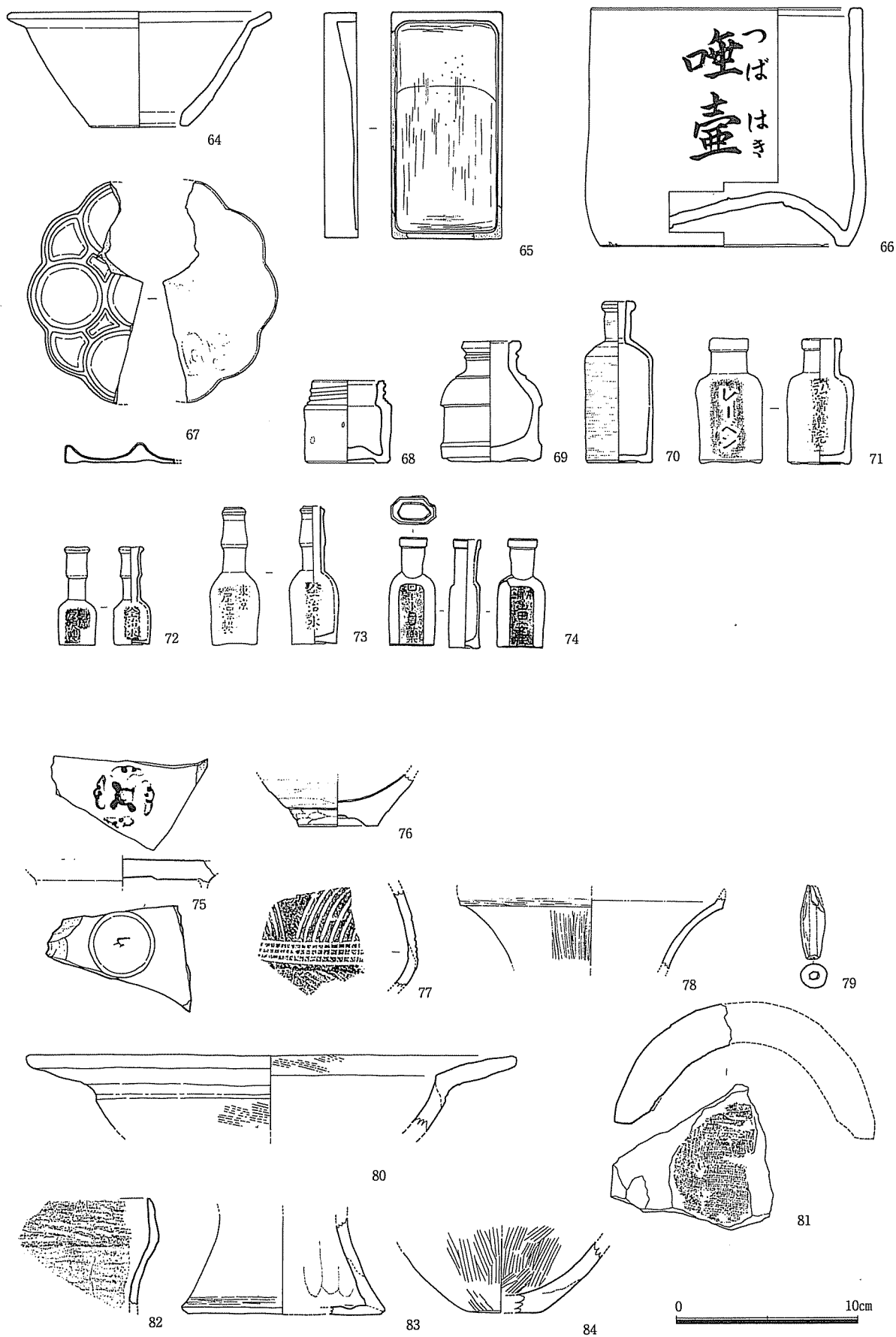


図37 9405調査地点出土遺物実測図4 (1/3)

表6 9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
34	1	弥生土器	壺形土器	口径 12.9	1/2・底部欠	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue5YR8/4 外：Hue7.5YR7/4	1号住居址	
	2	弥生土器	壺形土器		胴部片	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue7.5YR8/4 外：Hue7.5YR7/3	2号住居址	
	3	弥生土器	壺形土器		胴部片	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/4	2号住居址	
	4	瓦	軒丸瓦・瓦当	直径 15.8 厚さ 3.3	1/2		内：HueN4/0 外：HueN4/0	1号土坑46	珠文左三つ巴紋
	5	瓦	軒丸瓦・瓦当	長さ 11.4 幅 7.8 厚さ 3.0	1/3		内：HueN4/0 外：HueN4/0	1号土坑32	珠文右三つ巴紋
	6	白磁	壺	口径 4.8 底径 器高	口縁部片	内： 外：	内： 外：	1号土坑60	
	7	陶器	碗	口径 底径 器高	底部1/2片	内： 外：無釉(底)	内： 外：	1号土坑64	
	8	青磁	皿	口径 8.1 底径 器高	底部片1/4	内：無釉 外：	内： 外：オリーブ釉	1号土坑72	畳付釉拭取・砂目
	9	染付	碗	底径 4.2	口縁欠	内：網状紋 外：	内： 外：	1号土坑49	
	10	染付	碗	長さ 2.8 幅 3.8 厚さ 0.7	破片	内：網状紋 外：網状紋	内： 外：	1号土坑7	
	11	染付	鉢	底径 4.5 器高	1/2破片 口縁欠	内： 外：	内：無釉 外：緑色釉	1号土坑5	
	12	染付	瓶	口径 4.4	口縁欠 ・1/2	内： 外：草花紋	内： 外：	1号土坑	内面無釉
	13	染付	皿	底径 7.1	1/4・口縁部欠	内：蜻唐草紋 外：唐草文	内： 外：	1号土坑13	
	14	陶器	碗		破片	内：白色巴紋 外：白色線紋	内：黒褐色釉地 外：	1号土坑73	唐津系蛸手
	15	白磁	碗	口径 4.8 底径 器高	口縁部欠	内： 外：	内：灰色釉 外：	1号土坑53	
35	16	陶器	壺	口径 7.0 底径 器高	口縁部片	内： 外：	内： 外：緑色釉	1号土坑	
	17	陶器	急須		注口のみ	内： 外：	内： 外：黒褐色釉	1号土坑	
	18	陶器	急須	口径 10.8	口縁部1/6 破片	内： 外：	内： 外：褐釉	1号土坑6	耳部あり
	19	貝殻		口径 底径 器高		内： 外：		1号土坑	蛤：風化により白色を呈する
	20	磁器	鉢	口径 8.6	口縁1/4	内： 外：鉄絵	内： 外：	1号土坑40	
	21	陶器	播鉢	口径 11.1 底径 器高	底部片	内： 外：回転ナデ	内：Hue10R5/4 外：Hue10R5/4	1号土坑4	播目は密
	22	煙管	吸口	長さ 5.6 直径 1.0	一部欠損	内： 外：		1号土坑58	銅製
	23	陶器	蓋	口径 9.2 器高 2.6	1/2	内： 外：	内：無釉 外：褐釉	1号土坑2	

1. 熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査

表6 9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考	
35	24	陶器	播鉢	口径 33 底径 器高	口縁1/3 破片	内： 外：	内：Hue2.5YR5/3 外：Hue2.5YR5/3	1号井戸	口縁に鉄釉・播目 単位10本	
	25	染付	碗	口径 10.8 底径 器高	口縁1/4 破片	内： 外：網状紋	内： 外：	1号井戸37		
	26	磁器	蓋	口径 底径 器高	破片	内： 外：	内： 外：	1号井戸下 層	緑色釉	
	27	青磁	碗	口径 底径 器高	破片	内：浮彫 外：	内：オリーブ色 外：オリーブ色	1号井戸5		
	28	磁器	碗	口径 底径 器高 3.6	破片	内： 外：	内：灰色釉 外：灰色釉	1号井戸75	見込砂目	
	29	磁器	碗	口径 10.7 底径 器高	口縁1/4	内： 外：	内： 外：	1号井戸40		
	30	白磁	坏	口径 8.7 底径 3.4 器高 4.7	口縁一部欠	内： 外：	内： 外：	1号井戸90	薄手内面に浮彫 紋・型作	
	31	磁器	鉢	口径 22.7 底径 9.8 器高 9	1/2	内： 外：	内：オリーブ釉 外：オリーブ釉	1号井戸87	花器・内底に剣山 による擦痕	
	32	染付	碗	口径 底径 器高 5	底部片	内： 外：	内： 外：	1号井戸86		
	33	磁器	皿	口径 14.1 底径 器高	口縁部1/8 破片	内： 外：	内：灰色釉 外：	1号井戸47		
	34	染付	皿	口径 10.5 底径 6.4 器高 1.8	1/2片	内：笹の葉紋 外：松葉紋	内： 外：	1号井戸31		
	35	染付	皿	口径 22.1 底径 11.9 器高 3.4	1/4破片	内： 外：	内： 外：	1号井戸下 層	口縁端は花卉状	
	36	染付	皿	口径 18.8 底径 器高	口縁部片	内：波状紋 外：唐草文	内： 外：	1号井戸71		
	37	染付	皿	口径 底径 器高 7.2	1/2	内：山水画 外：	内： 外：	1号井戸	畳付砂目	
	38	陶器	播鉢	口径 18.6 底径 器高	口縁部片	内： 外：	内：乳白色釉 外：	4号井戸76		
	39	陶器	碗	口径 底径 器高 7.7	1/2破片・ 口縁欠	内：白色刷毛目 外：	内：茶褐色釉 外：茶褐色釉	4号井戸45	高台内は無釉・見 込釉拭取	
	40	陶器	碗	底径 4.1	底部1/2片・ 口縁欠	内： 外：	内：淡灰褐色釉 外：淡灰褐色釉	4号井戸69	見込・畳み付き砂 目	
	36	41	陶器	鉢	口径 底径 器高 7.6	底部片	内：鉄絵唐草文 外：	内： 外：	4号井戸下 層	
		42	陶器	鉢	口径 底径 器高	口縁部1/8 破片	内：白色波状紋 外：	内：褐色釉地 外：	1号井戸	
		43	陶器	甕	口径 底径 器高	底部1/6	内： 外：	内：Hue10YR3/2 外：Hue2.5YR3/3	1号井戸下 層	外面施釉 底部に 板圧痕・胎土目
44		陶器	急須	口径 底径 器高	把手部のみ	内： 外：	内： 外：褐釉	1号井戸28		
45		陶器	片口鉢	口径 底径 器高	口縁部1/6 破片	内： 外：	内：梨地状黒褐釉 外：梨地状黒褐釉	1号井戸下 層		
46		陶器	片口鉢	口径 21.8 底径 器高	口縁1/6 破片	内： 外：	内：褐釉 外：褐釉	1号井戸中 層	外面に鉄絵	

表6 9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考	
36	47	土製品	ミニチュア杓子	口径 底径 器高	破片	内： 外：	内： 外：Hue10YR7/3	1号井戸下層	柄部分 土師質	
	48	銅銭	寛永通宝	直径 2.53 厚さ 0.16	完形	内： 外：	内：	1号井戸上層		
	49	銅銭		長さ 2.22 幅 9.1 厚さ 0.12	2/3	内： 外：	内：	1号井戸上層	錆・破損により銘不明	
	50	石製品	有孔円盤	直径7.0 厚さ1.5	1/2	内： 外：	内：	1号井戸下層	軽石	
	51	瓦器	火舎	口径 27.8 底径 18.5 器高 6.4	1/3破片	内： 外：	内：HueN4/0 外：Hue10YR4/2	1号井戸88	胴部中位に孔・煤付着	
	52	土師器	皿	口径 8.6 底径 6.6 器高 1.1	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	1号井戸	回転糸切	
	53	土師器	皿	口径 8.2 底径 4.7 器高 1.7	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/3	1号井戸	回転糸切	
	54	土師器	皿	口径 6.7 底径 4.5 器高 1.4	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	1号井戸	回転糸切	
	55	石製品	砥石	長さ 10.3 幅 8.2 厚さ 1.8		内： 外：		1号井戸7	天草産	
	56	瓦器	甍		口縁部片	内： 外：	内：Hue10YR7/1 外：Hue10YR7/1	1号井戸中層	七花紋スタンプあり	
	57	瓦器	挿鉢	口径 底径 器高 23.1	口縁部片	内： 外：	内：HueN5/0 外：HueN5/0	1号井戸下層		
	58	青磁	碗	口径 9.5	1/3	内： 外：	内：淡いオリーブ 外：淡いオリーブ	1号井戸下層	畳付に砂粒付着	
	59	磁器	碗	口径 10.7 底径 4.8 器高 5.7	完形	内： 外：	内： 外：	4号土坑23	口縁端部外面に緑色の条線・日陶製	
	60	磁器	碗	口径 10.8 底径 3.8 器高 5	口縁1/4欠	内： 外：	内： 外：	4号土坑22	口縁端部外面に緑色の条線・日陶製	
	61	磁器	碗	口径 8.7 底径 4.5 器高 3.3	口縁部1/4破片	内： 外：鉄絵	内：オリーブ色 釉 外：	4号土坑39		
	62	染付	碗	口径 底径 器高 3.8	底部1/2片	内： 外：	内： 外：	4号土坑41	高田焼・型紙刷・見込釉拭取	
	63	染付	碗	口径 9.9 底径 3.8 器高 5.4	口縁部一部欠	内： 外：桜花と波状紋	内： 外：	4号土坑	型紙刷	
	37	64	磁器	漏斗	口径 14.2 底径 5.3 器高 6	完形	内： 外：	内： 外：	4号土坑	痰壺とセット
		65	石製品	硯	長さ 12.3 幅 6.2 厚さ 1.8	完形	内： 外：		4号土坑	粘板岩
66		磁器	壺	口径 14.9 底径 13.7 器高 14.3	完形	内： 外：	内： 外：	4号土坑	痰壺 「唾壺・つばはき」	
67		陶器	顔料皿	口径 底径 器高		内： 外：	内： 外：	4号土坑	絵皿・裏に墨書 「園師」「宅」	
68		瓶	糊瓶	口径 3.3 底径 4.4 器高 4.5	完形	内： 外：	淡緑色	4号土坑	ガラス	
69		瓶	インク瓶	口径 2.4 底径 4.5 器高 6.6	完形	内： 外：	淡緑色	4号土坑	ガラス	

2. まとめ

表6 9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
37	70	瓶	薬瓶	口径 0.9 底径 3.5 器高 8.7	完形	内： 外：	濃紺色	4号土坑	ガラス
	71	瓶	薬瓶	口径 1.7 底径 3.1 器高 6.7	完形	内： 外：	褐色	4号土坑	ガラス 「レーベン」 「弘済薬院」
	72	瓶	薬瓶	口径 0.9 底径 1.9 器高 5.3	完形	内： 外：	透明	4号土坑	ガラス 「全治水・東京小 沢製」
	73	瓶	薬瓶	口径 0.9 底径 2.5 器高 7.4	完形	内： 外：	透明	4号土坑	ガラス 「全治水・東京小 沢製」
	74	瓶	薬瓶	口径 1.5 底径 5.9 器高 2.85	完形	内： 外：	青色	4号土坑	「ロート目薬」 「本 舗山田安民」
	75	磁器	皿		底部片	内：草花文 外：	白色	調査区一 括	染付外底「ウ」銘
	76	陶器	碗	口径 底径 4.4 器高	底部片	内： 外：	内：黒褐釉 外：黒褐釉（上 半）	調査区一 括	
	77	弥生土器	壺形土器		胴部片	内：ナデ 外：重弧文	内：5YR6/6 外：2.5YR6/8	2号住居址	
	78	弥生土器	壺形土器		口縁1/8	内：ナデ 外：ナデ	内：5YR5/3 外：5YR6/3		
	79	土製品	土錘	長さ 4.0 幅 1.2	一部欠	内： 外：	Hue7.5YR8/4	調査区一 括	土師質
	80	弥生土器	鉢	口径 26.7	口縁1/6	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue7.5YR8/3 外：Hue7.5YR8/3		
	81	瓦	丸瓦	長さ 8.0 幅 9.2 厚さ 2.3	破片	内：布目 外：ナデ	内：Hue10YR5/3 外：Hue5Y6/1	1号井戸一 括	布目圧痕
	82	縄文土器	深鉢		口縁部1/8	内：ナデ 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR7/3	1号住居址	
	83	弥生土器	ジョッキ 形土器	底径 10.5	底部1/5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR8/2 外：Hue10YR8/2	2号住居址	
84	弥生土器	壺形土器	底径 3.8	底部1/3	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue7.5YR8/3 外：Hue5YR7/4			

2. まとめ

近世以降、様々な造成工事によって大きく改変されていたと考えられていた校庭に弥生時代の遺構が残存していたことは予想外のことであった。検出した竪穴住居址は2基であったが恐らく周辺にも住居址は広がっており、弥生集落がこの一帯に存在していたことは疑いない。土器の特徴からみて弥生時代後期の所産であろう。縄文、古墳時代の包含層は今回発掘した部分では既に削平されていたが、多くの事例からみて周辺にこれらの時期の遺跡が存在する可能性が高い。

思いがけず多かったのは江戸時代の遺物である。江戸時代には、この地は熊本城へ通じる街道の要衝であり、古地図によると、附属中学校敷地の北辺には大地を横断する広い堀切が描かれ、その北には街道を挟み、往生院をはじめ妙教寺、光永寺などの現在も残る3寺院が配置される。一方、堀切の南は肥後藩の家老澤村家の広大な屋敷を置き、有事に備えた陣型をなす。屋敷は附属小中学校敷地の全域を占め、小学校敷地は下屋敷跡、中学校敷地は上屋敷跡である。今回の調査地点は上屋敷の南西部にあたる。遺物は日用雑器に混じえて優品が相当含まれ当時の上級階級の生活のしのばれる。